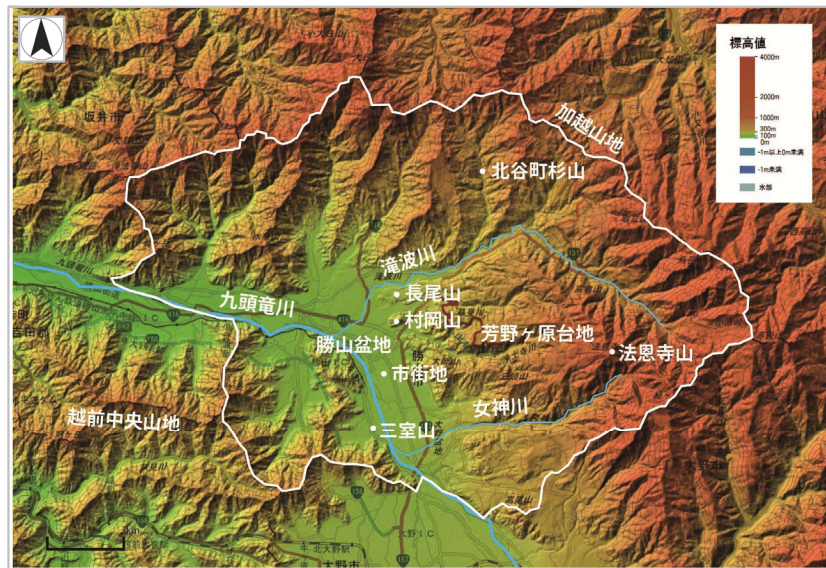
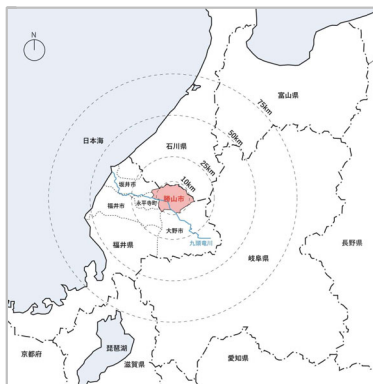


04 勝山市文化財保存活用地域計画【福井県】

【計画期間】 令和5～14年度
(10年間)

【面積】 約254km²

【人口】 約2.2万人



歴史文化の特徴

①
大地の形成と化石
に関する歴史文化

恐竜時代からの地球の歴史を物語る地質の上には、九頭竜川から周囲の山々へと連続してつながるダイナミックな地形が形成されており、人びとはこの大地に広がる自然の恵みと厳しさを享受してきた。

②
「中世宗教都市」平泉寺
と一向一揆
に関する歴史文化

養老元年(717)に泰澄が開いたと伝わる平泉寺は、白山信仰・白山登拝の拠点となり、中世には全国屈指の「宗教都市」といえるほどの発展を遂げる。天正2年(1574)、平泉寺は一向一揆との戦いに敗れ、全山焼亡した。一向一揆の拠点村岡山は、「勝ち山」と呼ばれ、現勝山市の地名の起こりとなった。

③
勝山城とその城下町
に関する歴史文化

勝山城とその城下町は、「七里壁」と呼ばれる河岸段丘崖を利用してつくられた。最初に城を築城したのは天正8年(1580)であったが江戸時代初めにいったん廃城となり、小笠原氏勝山藩のときに再建された。また、市域に存在した郡上藩領などの政治的な枠組を越えて城下町は賑わいをみせ、勝山左義長などの勝山城下町で行われてきた祭礼は現在も盛大に催されている。

④
勝山の近代産業と町・村
に関する歴史文化

勝山の近代産業は、たばこ製造・製糸業から織物業へと変化していく。工場が集まる勝山町には周辺の村から人々が働きにきた。また、村にも織物業をはじめ人が出はじめる、機織りの音が響いた。発電所や交通などのインフラ整備も行われ、産業の発達は地域内外の人や文化の流入をもたらした。

⑤
九頭竜川流域の農山村と
その暮らし・信仰
に関する歴史文化

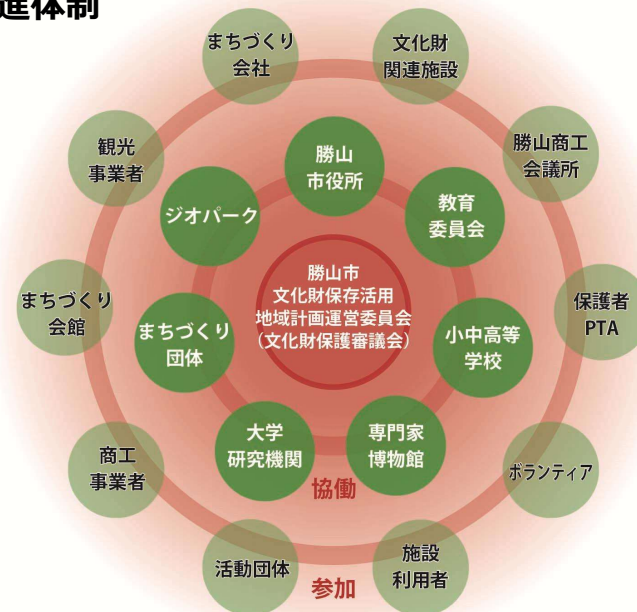
農村集落は、九頭竜川やその支流の豊かな水の恵みを活かした農業を行い、山村集落は、加賀との物資や人の往来の拠点であり、大雪などの自然環境と共生してきた。人びとは、道場や神社に集い、信仰とともに暮らし、川や山の資源を活かした独特の暮らしを行ってきた。

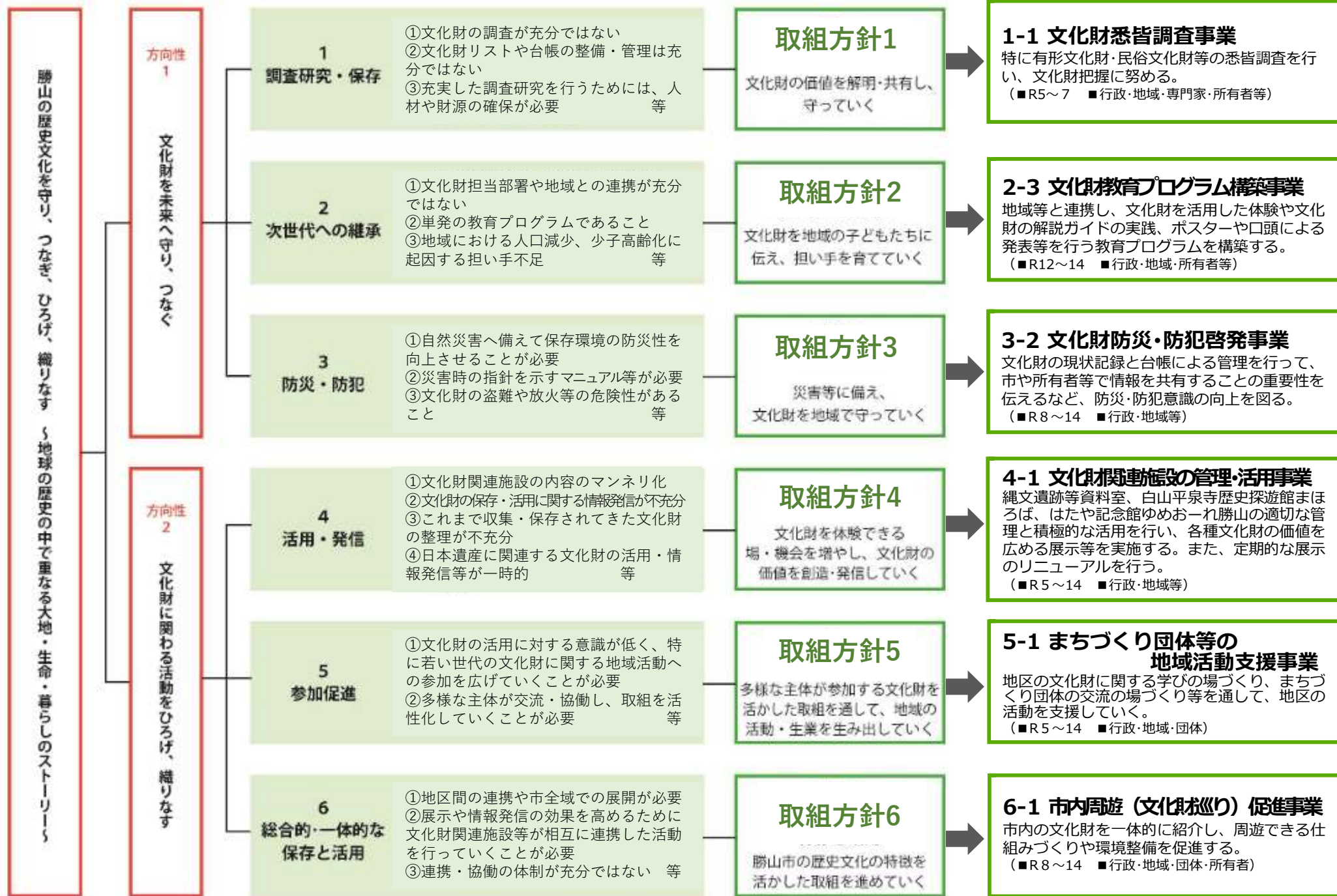
◆指定等文化財の件数 (令和4年8月現在)

分類	種別	国指定	県指定	市指定	国登録	合計
有形文化財	建造物	1	0	8	7	16
	絵画	0	0	2	0	2
	彫刻	0	3	3	0	6
	工芸品	0	0	2	0	2
	書跡	0	0	6	0	6
	古文書	0	0	6	0	6
	考古資料	0	0	4	0	4
	歴史資料	0	0	7	0	7
	書画	-	-	1	-	1
無形文化財		0	0	0	0	0
民俗文化財	有形	0	0	4	0	4
	無形	0	1	5	0	6
記念物	旧跡	-	-	1	-	1
	遺跡	1	1	9	0	11
	名勝地	1	1	1	0	3
	動物・植物・地質鉱物	2	0	8	0	10
伝統的建造物群保存地区		0	-	-	-	0
文化的景観		0	-	-	-	0
合 計		5	6	67	7	85

指定等文化財は、85件
未指定文化財は、956件把握

◆推進体制





文化財の総合的・一体的な保存と活用

◆歴史文化ストーリーの設定

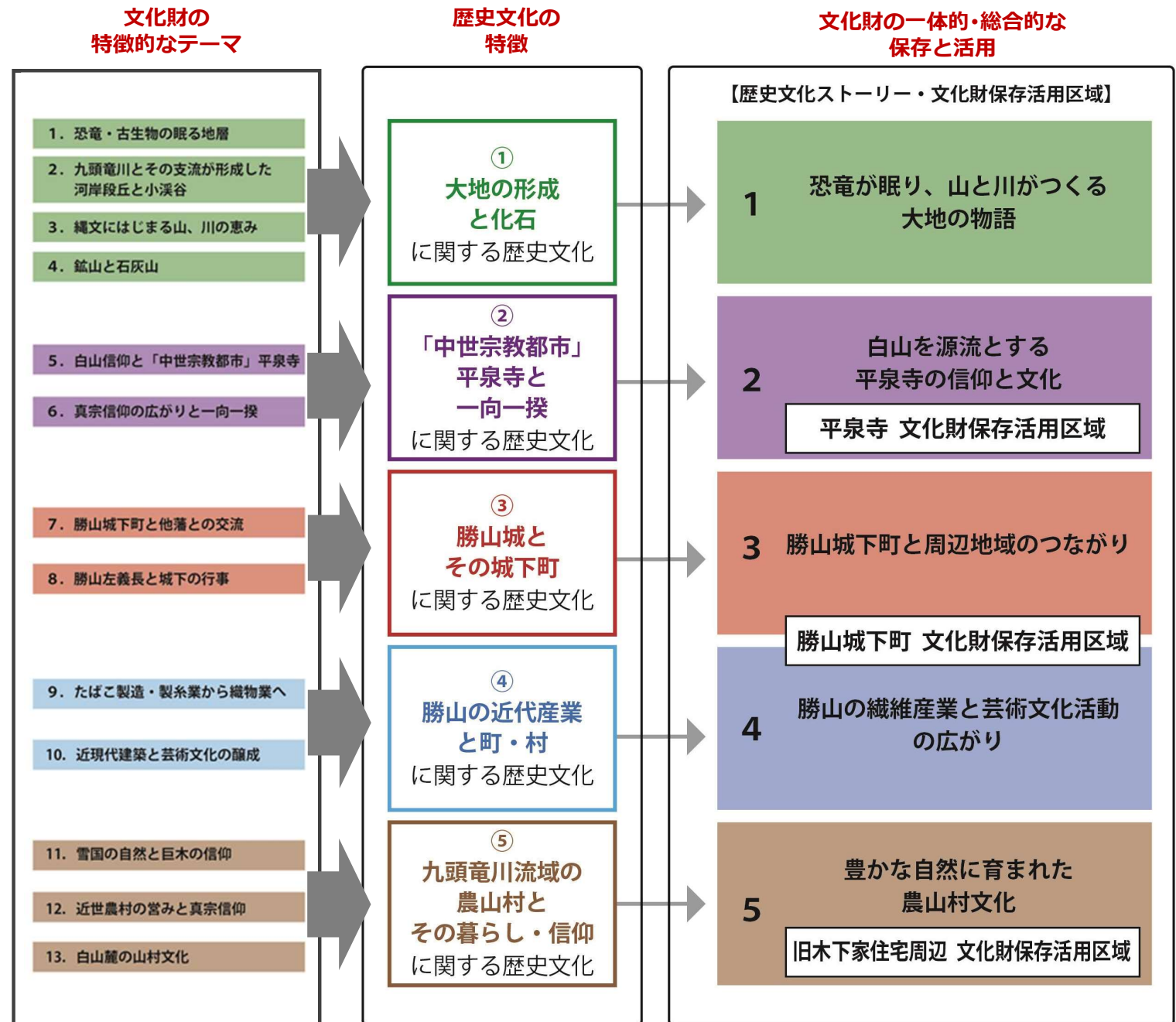
勝山市の歴史的背景や市内10地区ごとの特徴をふまえ、多種多様で膨大な文化財を**13の「文化財の特徴的なテーマ」**に整理した。次にこのテーマにもとづき、**5つの「歴史文化の特徴」**に整理した。さらに、この特徴から、保存・活用を目的とした**5つの「歴史文化ストーリー」**(=関連文化財群)に沿って、文化財をグループ化した。

グループ化されることによって、未指定文化財についても構成要素としての価値付けが可能となるとともに、相互に結びついた文化財の関係性を明確にして、多面的な価値・魅力を発見することができる。

◆文化財保存活用区域の設定

核となる文化財を中心に、質・量ともに豊富な文化財が面的に集中して広がる地域で、すでに歴史文化に関連する団体が存在し、その活動や事業が行われ、取組のさらなる発展を望むことのできる区域を設定する。

周辺環境を含めた当該文化財(群)を核とし、地域の特徴を活かした歴史文化の魅力ある空間の創出を重点的に行う。



歴史文化ストーリー 2 白山を源流とする平泉寺の信仰と文化

【課題】

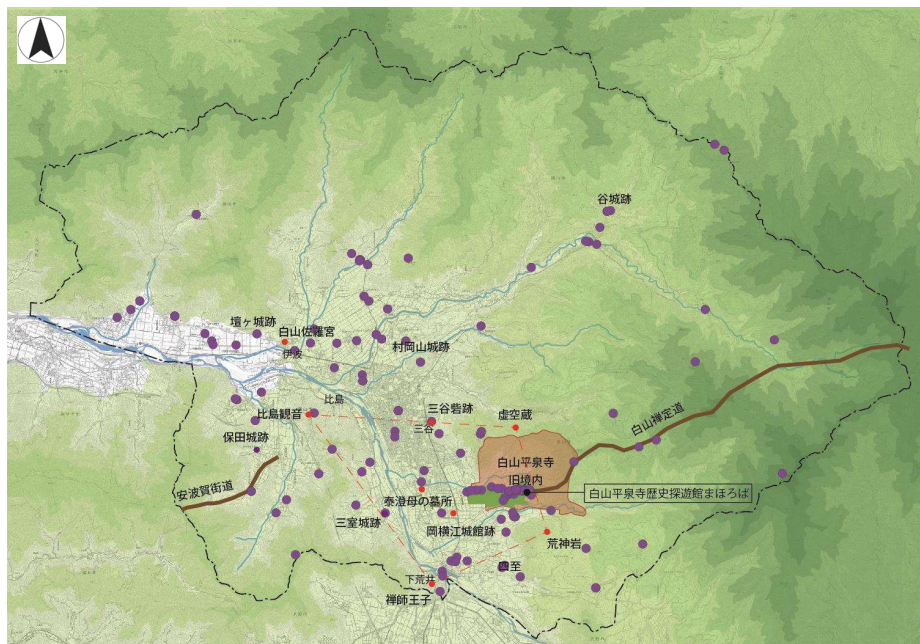
白山平泉寺旧境内の発掘調査は、多大な成果を生み出してきたが、調査面積は旧境内全体の約 1 %にとどまる。また、平泉寺に関連する文化財は市内外に多数分布しているが、個別の保存・活用にとどまることから、各文化財の関連性を明確にして連携・発信する必要がある。

【方針】

白山平泉寺旧境内の発掘調査を計画的・継続的に実施し、村岡山城跡などの一向一揆関係の文化財を含めた関連文化財の一体的な価値の情報発信等を行うとともに、日本遺産の取組等による広域での面的な活用を進める。また、真宗信仰・伝統行事等の保存・活用も地域とともに行う。

【歴史文化ストーリー2の概要】

白山信仰のはじまりの地である平泉寺は、養老元年(717)に泰澄により開かれ、中世には、全国でも屈指の「宗教都市」として発展し、地域の中核となった。しかし、天正2年(1574)に一向一揆との戦いに敗れ、全山焼亡した。この時の一向一揆の拠点であった村岡山は、この勝利によって「勝ち山」と呼ばれ、勝山市の地名の起りとなった。



文化財の分布(紫色丸)

* 四角枠は拠点施設、赤色丸は平泉寺四至・白山佐羅宮・砦・館・泰澄母の墓所、
緑色は平泉寺景観形成地区、橙色は平泉寺遺跡の埋蔵文化財包蔵地、茶色線は道

番号	事業名	事業概要	財源	事業主体					事業期間		
				行政	地域	団体	専門家	所有者	前期	中期	後期
Ⅱ-1	国史跡白山平泉寺旧境内発掘調査事業	国史跡白山平泉寺旧境内の計画的・継続的な発掘調査を行う。(新規)	国市	◎			○				
Ⅱ-2	白山平泉寺観光ＰＲ・環境整備事業	パンフレットの発行や商談会での旅行会社等へのＰＲ。令和７年度に予定されている平泉寺白山神社の御開帳にあわせて広くＰＲするとともに環境整備を行う。(新規)	市民間	◎	○	◎	○	○			
Ⅱ-3	白山平泉寺振興拠点指定管理事業	平泉寺白山神社の精進坂前のエリア一帯を「白山平泉寺観光振興拠点」として位置づけ、指定管理者制度の導入により、持続可能な維持管理を目指す。(継続)	市		○	◎					
Ⅱ-4	白山平泉寺歴史探遊館運営事業	白山平泉寺旧境内の総合案内施設として、平泉寺の歴史や発掘調査成果、自然の魅力等を来訪者に紹介し、魅力を発信していく。また、企画展示を実施して新しい情報を発信する。体験学習、活用推進事業を委託する。(継続)	市	◎	○	◎	○				
Ⅱ-5	世界遺産登録推進事業	白山を取り巻く福井・石川・岐阜の３県と６市１村で共同提案する「霊峰白山と山麓の文化的景観」の登録推進を図るとともに、平泉寺の魅力を全国に発信するため、「白山文化研究会」等で講演会を開催していく。(継続)	市	◎	◎	○	○	○			
Ⅱ-6 (再)	市内周遊(文化財巡り)促進事業	市内の文化財(平泉寺や一向一揆関連)を一体的に紹介し、周遊できる仕組みづくりや環境整備を促進する。(新規)	市	◎	◎	◎		◎			

勝山城下町文化財保存活用区域

【課題】

店舗等の商業施設が減少し、空き家も増加しているため、建物や町並みの維持が難しくなっており、地域住民や民間事業者の活力を活用しながら、町並み環境を維持していくことが必要である。

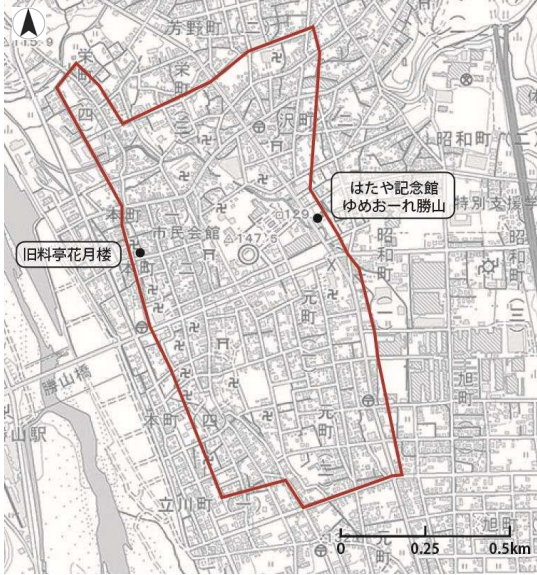
【方針】

江戸時代から現代までの町の歴史を知る区域とし、建設課や勝山まちづくり会館と連携しながら、歴史的建造物を活かして面的な整備を進め、来訪者が町並み散策を楽しめる区域として整備することを目指す。

【区域の概要】

「歴史文化ストーリー3：勝山城とその城下町」と「歴史文化ストーリー4：勝山の繊維産業と芸術文化活動の広がり」に関わる文化財の内、江戸時代の勝山城とその城下町であった範囲を基本とし、それを基盤として近代になって広がりを持った町域も含めて重点的な支援を行う文化財保存活用区域として設定する。

当区域の中で、旧城下町は明治29年(1896)の大火で全焼したが、町並みは再建され、当時の面影を残す歴史的な建造物が現在も点在している。また、旧勝山城域は、近代に織物工場群などが立ち並び、現在は市役所やショッピングセンターがある。旧勝山城域南側の旧武家屋敷域は、現在住宅街であり、町割りに武家屋敷であった時代の面影が残る。



勝山城下町文化財保存活用区域
拠点として、はたや記念館ゆめおれ勝山(市指定)や旧料亭花月楼(国登録)などが整備された。ゆめおれ勝山は近代織物業を中心とした地域の歴史を展示し、旧料亭花月楼は勝山市観光まちづくり会社によって食事処として活用されている。



勝山三町の通りと町家(未指定)



旧勝山城下域の七里壁(市)

番号	事業名	事業概要	財源	事業主体					事業期間		
				行政	地域	団体	専門家	所有者	前期	中期	後期
Ⅲ-3 (再)	歴史的まちなみ景観創出事業(建設課)	勝山市の景観計画区域(市内全域)の内、景観形成地区である本町通りの景観保全を目的に、伝統的民家や歴史的建造物等の景観に配慮した改修に対する補助を手厚く行い、伝統的建造物の保存・活用・継承を図る。(継続)	市	○	○		○	◎			
Ⅲ-5	町中高札整備・活用事業(勝山まちづくり会館)	町中に高札や石柱を整備し、町中散策イベントや高札と城下町の絵図を印刷したクリアファイルの作成・活用を行う。(継続)	市	○	◎	○	○				
Ⅲ-6	勝山地区の宝物・夢を描く灯りまつり事業(勝山まちづくり会館)	勝山地区まちづくり協議会等が中心となって、中央公園で勝山地区の宝物や夢の絵を描いた行灯を展示し、町中散策のきっかけとする。(継続)	市	○	◎	○					



旧料亭花月楼(国登録)



はたや記念館ゆめおれ勝山(市)



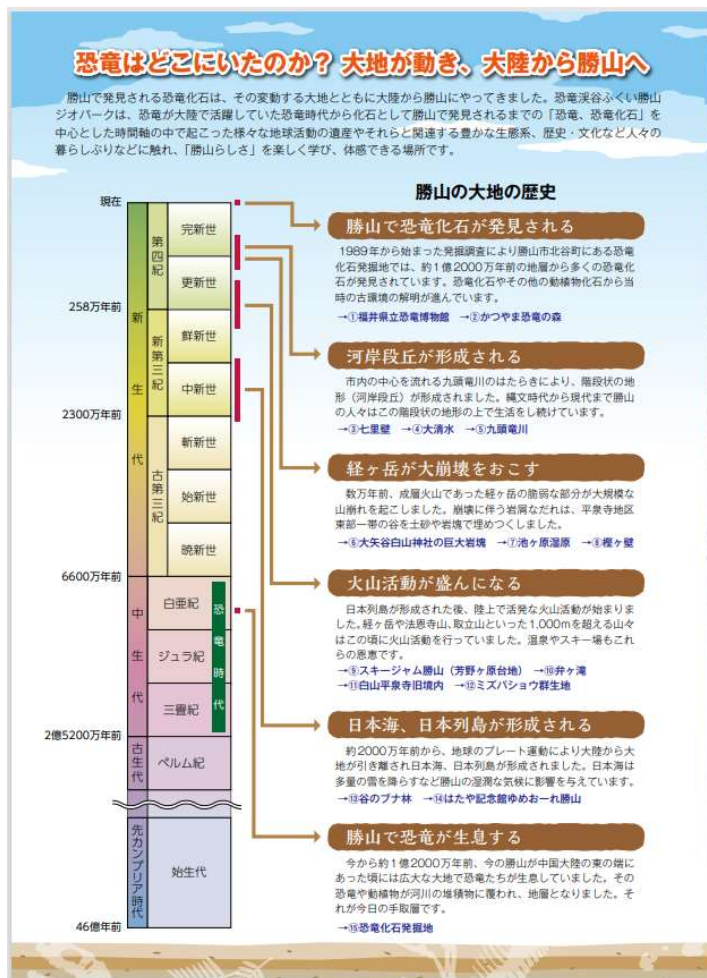
勝山左義長(県)・左義長櫓(市)

主な文化財

旧成器堂講堂(市)、毘沙門の金燈籠(市)、元禄時代勝山町図(市)、山田家住宅(未指定)、勝山城址之碑(未指定)、勝山城跡・袋田遺跡(未指定)、深谷家住宅洋館(国登録)、勝山製糸工場扁額(市)、KKクレープ(市)、河原町の通りと町家(未指定)

【関連計画等】

- 恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク（日本ジオパーク、H21年）
- 日本遺産「400年の歴史の扉を開ける旅～石から読み解く中世・近世のまちづくり 越前・福井～」（R元年度）



恐竜溪谷ふくい勝山ジオパーク推進協議会事務局：「恐竜溪谷ふくい勝山ジオパーク」パンフレットより